



News Letter

No.18

一般社団法人日本老年歯科医学会 会報

平成 26 年 12 月 31 日発行

【本号のトピックス】

本会ホームページのリニューアル／委員会だより(在宅歯科診療等検討、歯科衛生士関連)／国際渉外委員会より／支部活動だより／第26回学術大会 演題締切迫る ほか

本会ホームページが大幅にリニューアルされました！

広報・研修委員会委員長
河相 安彦

平成26年11月10日、本会ホームページがリニューアルされました。トップページに、会員への最新情報、認定医・専門医検索サイトへのリンク、学会誌の閲覧と投稿と「最新の案内」が盛り込まれています。トップページには7つのタブを配しました。薄い緑が主に一般向け、濃い緑が会員向けの情報となっています。タブの中身について概説します。

学会紹介のタブです。理事長挨拶、学会の沿革など学会組織の情報発信のコンテンツを配しています。

認定医・専門医一覧のタブは、認定医・専門医の検索が容易にできるようにしました。また、研修機関や摂食機能療法専門歯科医師および認定歯科衛生士へのリンクも用意しています。

学術大会・セミナーのタブは、今後行われる学術大会とセミナーおよび研修会などの案内を UP TO DATE で掲載しています。認定医・専門医更新の際に必要な単位数も記載されており、ご自分の研修に有効活用いただければと思います。また過去に行われたセミナー等もアーカイブされています。

出版物のタブは、本会学術雑誌および学会出版の成書の表紙をアイコンでビジュアル化し、閲覧や投稿、購入先へリンクをしました。また学会ガイドラインもすぐ見られるようになりました。今後、新刊書籍は随時掲載追加し閲覧できるようになります。

認定制度のタブは、新規認定を目指す方と、更新手続きをされる方へ入り口を分け、それぞれのカテゴリごとの規則と、今までファイルごとにダウンロードしていた申請様式を、一括でダウンロードできるようにしました。また、指導医、研修機関や摂食機能療法専門歯科医、認定歯科衛生士(老年歯科)の申請について

もそれぞれ、ステップごとのチェックリストを作成し、「分かりやすい申請」を心がけました。

各種委員会のタブは、本会の委員会活動を発信するとともに、過去の委員会の活動記録を保存し、アーカイブの役割を付加しました。

そして一番右端にあるのが入会案内のタブです。ホームページに来ていただいた方が入会したくなるよう、内容に関するご助言を今後も広報・研修委員会にいただきますようよろしくお願い致します。



委員会だより

在宅歯科医療等検討委員会

委員長 菅 武雄

委員 米山武義, 猪原 光, 菊谷 武
花形哲夫, 星野由美, 吉田光由, 渡邊 裕
渡部芳彦 (幹事: 飯田良平)

当委員会は委員9名で構成されています。開業医の先生および歯科衛生士さんにも加わって頂きました。いずれも知識経験豊富な方々です。

活動としては、いくつかのテーマを考えています。まだ十分に検討されていないものも含まれていますが、会員の皆さんの意見等もお聞きしたいので私見も交えて紹介致します。

1. 在宅歯科医療 (学) シラバス作成

在宅歯科医療を学び、研修するために必要なのがシラバスです。外来中心に臨床を学んできた歯科医師、歯科衛生士に在宅歯科医療の位置付けや考え方などの基盤を提供したいと考えています。

在宅歯科医療は実施している歯科医師の考え方に大きく左右されます。診療の範囲や目標設定、他職種との連携、地域単位の活動など複雑な環境のなかで構築しなくてはなりません。種々の考え方をヒアリングし、さまざまな考え方を取り入れたいと考えています。

2. 啓発活動

多くの歯科医師、歯科衛生士が学生時代に在宅医療・在宅歯科医療の講義を受けていません。そして実践の分野として、講義の受講では不十分ですので研修の企画も他の委員会と連携して進めたいと考えています。特に診療分野の医療安全や診療方針の立案、ケアにおける歯科衛生士の役割と多職種連携、リハビリテーションにおける評価や検査なども必要です。

3. 先進技術開発研修

テーマは2つ。嚥下内視鏡検査と口腔咽頭吸引です。嚥下内視鏡検査については実績が上がっています。研修については摂食嚥下リハ委員会の活動をお手伝いできれば、と考えています。口腔咽頭吸引については、看護師による呼吸管理の意味合いの吸引ではなく、口腔のケアの一環としての口腔咽頭吸引のマニュアル化、研修システム構築などにも着手したいと考えています。

歯科衛生士関連委員会

委員長 武井典子

委員 石黒幸枝, 小原由紀, 那須郁夫,
原久美子, 日山邦枝, 藤原ゆみ, 藤平弘子,
眞木吉信, 山根 瞳 (幹事: 小原由紀)

当委員会は、本学会の認定歯科衛生士 (老年歯科) 専門審査と認定研修を推進するために設けられた委員会です。認定事業は、「高齢者に必要な歯科医療・保健を提供するための知識、臨床経験を有する 歯科衛生士を養成することにより、歯科医療・保健の立場から高齢者の生活を支援し、高齢者の健康を増進する」ことを目的に行っています。公益社団法人日本歯科衛生士会と専門審査の制度を設け、平成 22 年度よりスタートし、昨年度までに 91 名の歯科衛生士が認定されています。

さらに当委員会は、認定歯科衛生士の専門審査申請のための認定研修および認定 5 年後の認定更新に向けての認定研修を行っています。認定研修は、認定歯科衛生士として、「高齢者に必要とされる歯科医療保健に関わる高度な知識と技術を修得する」ことを目的に行っています。

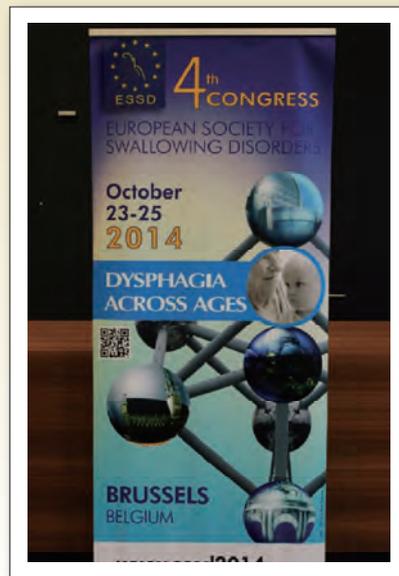
急速に超高齢社会が進展するなか、他・多職種と協働するために、今、歯科衛生士の専門性が問われています。今後さらに、歯科衛生士全体の専門性の向上・確立を目指して、認定歯科衛生士数の向上に努力したいと存じます。そのために、本学会の新しいホームページを活用して PR を推進して参ります。また、毎年の学術大会にて、認定の要件の中で単位数が多く歯科衛生士にはハードルが高いと言われていました『研究の進め方』、『学会・論文発表の仕方』に関する研修に力を入れて参りたいと思います。たくさんの歯科衛生士が認定取得に向けてチャレンジ頂けることを願っています。



国際渉外委員会より

4th Congress of European Society for Swallowing Disordersに参加して

European Society for Swallowing Disorders (ESSD) は、ヨーロッパを中心に活動する、嚥下障害をメインテーマとした学会です。北アメリカには Dysphagia Research Society という歴史のある学会がありますが、ヨーロッパ版とのことで4年前に学会となりました。今年は、2014年10月23日～25日の3日間、ベルギー・ブリュッセルにて4th Congress of ESSDが開催されました。今回は招待講演23題の他、口演発表44題、ポスター発表94題と多くの演題が発表され、活発な討議が行われました。私は本学会には初参加でしたが、参加経験のある先生方に聞いたところ年々日本人の参加者も増加しているとのこと。本邦からの発表も多く、口演4題、ポスター演題も11題ありました。日本からの参加者はほとんどが歯科医師だったのとは比べ、本場ヨーロッパからの出席者は(といってもアメリカやオーストラリアからの参加者もたくさんおられました)



言語聴覚士や医師が多く、日本との職種間のギャップが見られました。

咽頭電気刺激や経頭蓋磁気刺激を用いた独創的な取り組みや、遺伝子を使った疫学研究など、非常におもしろい発表を聞くことができました。また今回、初めての試みとして症例検討会が行われており、様々な立場・環境からいろいろな意見が出されていました。一方で、口腔ケアや口腔期に関する発表は少なく、補綴装置を用いたりハビリテーションなどはまだ浸透していない様子でした。

今後も、我々から歯科ならではの情報発信をしていければと感じました。来年は2015年10月1日～3日にスペインのバルセロナで開催される予定とのことです。

(国際渉外委員 堀 一浩)

関連学会のお知らせ

23th Annual Meeting of the Dysphagia Research Society
2015年3月12～14日 開催地：シカゴ

<http://www.dysphagiaresearch.org/?page=2015DRSMeting>

支部活動だより

長野支部主催セミナー

会 期：2015年2月28日(土)10:00～16:00
会 場：松本歯科大学 図書館2階 学生ホール(長野)
テーマ：要介護高齢者への食事介助！
認定制度更新研修単位：3単位

内容・講師

「食事介助に必要な嚥下機能の基礎知識」
配島 弘之(松本歯科大学障害者歯科学 准教授)

「要介護高齢者にみられる疾患—特徴と介助時の注意事項—」
武井 洋一(中信松本病院 臨床研究部長 神経内科 医師)

「食事介助の注意点：全身状態への配慮と口腔内状態の把握」
菊谷 武(日本歯科大学臨床口腔機能学 教授)

「要介護高齢者の食事介助の実際(相互実習)」
配島 弘之(松本歯科大学障害者歯科学 准教授)

松本歯科大学障害者歯科学講座所属歯科医師数名

「食事介助時の危機管理」：講義と実習
小笠原 正(松本歯科大学障害者歯科学 教授)

主 催：日本老年歯科医学会 長野県支部
連絡先：〒399-0781 長野県塩尻市広丘郷原1780
松本歯科大学障害者歯科学講座 小笠原 正
TEL: 0263-51-2355 FAX: 0263-51-2115
E-mail: ogasawara@po.mdu.ac.jp

大阪支部後援セミナー

会 期：2015年2月8日(日)10:00～16:45
会 場：AP 大阪梅田茶屋町(大阪)
テーマ：高齢者歯科医療の問題点と対応

内容

高齢者医療と摂食機能療法を考える ほか

第26回学術大会 演題締切迫る

第26回学術大会 課題口演および一般演題の演題登録・抄録登録締切は平成27年2月2日(月)12時までとなっていますのでお急ぎください。詳細は大会ホームページでご確認をお願いいたします。



「摂食機能療法専門歯科医師」 制度の紹介

超高齢社会における摂食・嚥下障害の需要の高まりを背景に、平成27年度から標記制度を開始いたします。目的とするところは、摂食嚥下リハビリテーションに対して、より専門性のある正確な理念と技量を備えた歯科的人材

の育成にあります。歯科としての標準的な摂食・嚥下障害への対応の確立と並行しながら、本制度の新たなる展開について御理解をいただきたくお願い申し上げます。

詳しい内容は学会ホームページにてご確認ください。受付期限(平成27年1月23日消印有効)が迫っていますので、お見逃しのないようお願い申し上げます。

(摂食機能リハビリテーション委員会
委員長 植田耕一郎)



『認定歯科衛生士申請の条件が 変更になりました』

認定歯科衛生士申請の施設条件のひとつである“指導医あるいは認定医の恒常的な指導を受けられること”が、“会員である歯科医師の指導を受けられること”に変更になりました。申請を検討されている方は、是非学会ホームページでご確認ください。

(歯科衛生士関連委員会)

編集後記

明けましておめでとうございます。謹んで新年のお祝辞を申し上げます。

News Letter No18をお届けいたします。今号では櫻井理事長、河相 広報・研修委員会委員長の陣頭指揮のもと、また口腔保健協会の古澤さん、開発さんにお手伝いをいただきながら、広報・研修委員会で取り組んでまいりました「より見やすく・わかりやすいホームページのリニューアル」の詳細に関し、河相委員長の寄稿をトップ記事といたしました。2面では委員会だより、3・4面では国際渉外委員会よりヨーロッパ嚥下障害学会参加報告、支部活動だよりとして支部セミナーのご案内、第26回大会、平成26年12月より新たに施行されました摂食機能療法専門歯科医師制度などをご紹介いたしました。ご一読いただければ幸いです。

News Letterは年4回(6・9・12・3月)発行しております。より充実したNews Letterにするためにも、会員の皆様のご意見をいただければと思います。忌憚のないご意見・ご鞭撻をお待ちしております。ホームページ・お問い合わせより広報・研修委員会宛にお寄せください。

(副委員長 糸田 昌隆)



発行人 櫻井 薫
編集 日本老年歯科医学会広報・研修委員会
事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9
駒込TSビル401 (一財)口腔保健協会内
電話 03-3947-8894 FAX 03-3947-8341